長野県埋蔵文化財センター

正泉寺遺跡　発掘だより

第13号（令和8年度第4号）2026.11.10

10月の調査



９区　調査風景

暑かった夏も過ぎ、過ごしやすい季節になってきました。９月の長雨の影響で、発掘作業は思うように進みませんでしたが、９区上面の調査は終盤を迎えています。隣接地の７区（令和７年度に調査済）と同様、古墳時代から奈良・平安時代の竪穴建物跡40軒や掘立柱建物跡１棟、土坑90基などの遺構が重なり合って多数みつかっています。10月末には、ドローンを使った空中写真撮影を行いました。上空から撮影することで、遺跡がどのような場所に立地し、どのように広がっているかを知ることができます。

今後は９区下面の調査を行います。６区・７区で発見された弥生時代の流路跡の上流部分が存在すると予想しています。



９区上面　全景　（南から撮影）

９区　調査のようす



磨製石鏃（ませいせきぞく）

平安時代の竪穴建物の埋土中から、完形の磨製石鏃がみつかりました。中央部には孔が空いています。弥生時代の遺物が平安時代の遺構に紛れ込んだのでしょう。



掘立柱建物跡（ST2）

等間隔に並んだ花こう岩の礫を検出しました。石の周辺に掘り込みがあることから、柱穴の底部に石を置き、柱の沈込みを防いだのではないかと考えています。



竪穴建物跡（SB199）のカマド

古墳時代の竪穴建物跡です。北西壁の中央部にカマドが作られていました。カマド周辺には、土師器甕（はじきかめ）の破片が多数みつかりました。カマド廃棄時に儀礼的な行為として置かれたものだと思われます。



竪穴建物跡（SB199）カマドの石組み

カマド周辺の崩れた黄色い粘土を取り除くと、袖の芯材となる石組みがよく残っていました。



調査区域内は、危険な場所もありますので、許可なく立ち入らないようお願いします。調査中であれば、ご説明いたしますので、お気軽にお声がけください。

座光寺上郷道路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
飯田市正泉寺遺跡 発掘だより第13号（令和8年度第4号）
長野県埋蔵文化財センター　飯田支所
〒395-0151　飯田市北方297-5
電　話：0265-49-0736
メール：maibun@naganobunka.or.jp
Ｈ　Ｐ：https://naganomaibun.or.jp/
担　当：丸山/青野/長谷川/遠藤